



ワークショップ 前

1. 育てたい生徒像

①自分軸と他者軸を併せ持って判断し、行動できる生徒。

2. 単元(本時)の授業の目標

①本編作品に登場する二人の少年のうちどちらか一人を選択し、その少年が何年後かに挫折して精神的危機に陥る状況を描く。そして、第三者のキャラクターを自由に造形し、精神的危機から救出する場面を創作する。

3. 授業の中での具体的な問い

【Extensions】

創作後のふりかえりでの問いかけ

- ①人は絶望的な状況をどのように克服するだろうか？
- ②人の価値観はどのようなきっかけで変容するだろうか？

【Connections】

感情移入しやすい方の登場人物の価値観を洞察するための問いかけ

- ①ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」に登場する「僕」あるいは「エーミール」は、将来どんな挫折をするだろうか？(生徒は「僕」「エーミール」のうち、どちらか感情移入しやすい方を選べる)
- ②コムラサキに対するエーミールの評価に悪意はあったのだろうか？
- ③あなたが神様ならどんな人物を造形し、「僕」あるいは「エーミール」を救うか？

【Ideas】

登場人物のその場面での心情を考えるための問いかけ

- ①夢中になって集めた大切なコレクションを「僕」がバラバラに潰してしまったのはなぜだろう？

ワークショップ 後

1. 育てたい生徒像

①自分軸と他者軸を併せ持って判断し、行動できる生徒。

2. 単元(本時)の授業の目標

①' 敵役の少年「エーミール」を主人公としてスピンオフ小説を創作する。エーミールの心の葛藤を描く。(エーミールの心の葛藤を描くことにフォーカスする)

3. 授業の中での具体的な問い

【Extensions】

創作後のふりかえりでの問いかけ

- ①' 許してあげたくても、なかなか許してあげられないことが実際にはある。そんな時、どんなことが障壁になっているだろうか？
- ②人の価値観はどのようなきっかけで変容するだろうか？

【Connections】

創作前の準備。敵役の少年エーミールの価値観を洞察するための問いかけ

- ①' なし(ワークショップ前の①を問うこと自体を止めた)
- ②' エーミールの発言に悪意があると受け取る人がいる。一方で悪意はないと受け取る人もいる。どのような立場にたつと悪意があるように読めるか？ またどのような立場では悪意がないと読めるか？
- ③' なし(ワークショップ前の③を問うこと自体を止めた)
 - (新たな問い) エーミールは宝物を壊した張本人の釈明に対して質問もせず「ちえっ」と舌打ちをして相手を見下す発言をした。なぜそれしかしないのか？

【Ideas】

創作前の準備。登場人物のその場面での心情、二人の少年の関係性を洞察するための問いかけ

- ①' なし(ワークショップ前の①を問うこと自体を止めた)
 - (新たな問い) 10歳の時点で「僕」はエーミールに劣等感をもっていた。ではその頃、エーミールは「僕」に対して優越感をもっていただろうか？
 - (新たな問い) 理不尽な力でボロボロにされた自分の宝(クジャクヤママユの標本)を修復している時、エーミールはどんな思いでいただろう？(本編では、エーミールが修復作業を試みた事実のみがそれとなく示されている)

ワークショップを通した気づき+NEXT STEP

1. 深めたい、解決したいと思っていたこと

- 生徒たちには、創作活動を通し自分とちがう価値観をもっている人がどのように考えたり感じたりするのかを体験してほしい。その願いに対して、自分の教案がどれほど有効なのかを知りたかった。
- 教師があらかじめ想定した解答に生徒を誘導しすぎないように、適切な問いかけ方を見つけたかった。

2. 改善のポイント

- 「育てたい生徒像」「目標」に対して活動がどれほど有効なのか、批判的に考える。
- 活動の自由度を上げ過ぎると目標から大きく外れてしまいやすい。しかし、自由度を下げ過ぎると活動がつまらなくなる。目標に適した自由度設定を考えなければならない。
- 「育てたい生徒像」に向かうストーリーをたどるためにCの問いがとても大切。しかも、このフェイズでズレが発生しやすいので要注意。
- 教師の問いかけが生徒の解答をある程度誘導してしまうことを前提として考えておく。
- 「本当にそうなのか」のフレーズを使って前提を問い直す。そして、生徒から出された各論を吟味し、深い対話を発生させる。
- 予期しない解答や発言を採り上げて議論を発展させるために、ゆとりをもった授業計画を立てる。

3. 新たな問い～モヤモヤ感・先生方と共に考えたいこと

- みんなが興味をもって参加できる問いとはどのようなものだろうか？
- 予期しない解答や発言をみんなで共有して活かすために、即興で深い対話を発生させたい。教師はどのように応答したらよいか？ そのコツを知りたい。

Cの問いの具体化

	問いかけの意図 (活用できる疑問詞・接続詞)	評価の対象とする内容	具体的な問い
1	本当か、そもそも What	批判的な思考により、与えられた前提を問い直している。	<ul style="list-style-type: none"> • エーメールは「僕」に対して少しも怒りを感じていないのだろうか？
2	そう言える理由・ 判断の根拠 Why	考えの根拠が示され、考えや論が論理的に関係づいている。	<ul style="list-style-type: none"> • エーメールが「僕」に対して怒りを表したり問い詰めたりしないのはなぜだろうか？ • エーメールが「僕」の謝罪を最後まで聞こうとしないのはなぜだろうか？
3	仮定と反事実的推測 If, If not	仮定によって、条件や状況を設定し推量の質を高めている。	<ul style="list-style-type: none"> • もしエーメールが「僕」に対して怒りを表すような人物だったとしたら、それ以前の二人の関係はどのようなものだっただろうか？ • もし「僕」が諦めずに心を尽くして謝罪したら、エーメールは謝罪を受け入れただろうか？
4	～にもかかわらず Even though	異質な考えや矛盾等を取り入れることで、考察をより深めている。	<ul style="list-style-type: none"> • 「僕」が目の前で悔い改めて謝罪しているにもかかわらず、エーメールがそれを受け入れたたりも不満をぶつけたりもせず、「僕」を見下す言動をとるのはなぜだろうか？
5	～なら、 ～が言えるだろう If then, If not then	前提に基づいて、新たな解釈や意味を付加したり、その幅を広げたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> • もしエーメールが相手を見下すことだけしかできなかったのだとしたら、エーメールはどんな問題を抱えていると言えるだろうか？
6	関係性の理解・発見 What ⇄ Why ⇄ How	関係性を理解したり、発見したりすることで、見いだした意味や内容を言語化している。	<ul style="list-style-type: none"> • もしあなたの知人・友人が、あなたの大切なものを壊したり奪ったとして、その後そのことを悔い改めて深く謝罪したら、あなたは相手を許すことができるだろうか？ • 相手を許さないことによって、あなたは何を失うだろうか？ • 相手の謝罪を受け入れるためには、あなたはどんなことを克服しなければいけないだろうか？
7	その他		